

私は教育実習が始まる前、3 週間という期間は長く、これだけの時間があれば生徒に多くのことを教えられると考えていました。しかし、いざ実習が始まると、私が生徒に教える以上に生徒や先生方から学ぶことが多いと気付きました。また、長いと思っていた 3 週間はあっという間に過ぎ去りました。

一週目は、様々な先生の授業の見学をさせていただきました。この見学を通して、各先生の授業スタイルや工夫点、生徒への質問の仕方、各クラスの雰囲気など、多くのことを学ぶことができました。

二週目からは、実際に授業を担当しました。初めは時間配分がうまくいかず、予定よりも早く授業範囲を終わらせてしまいました。その授業の振り返りの際に、担当の先生から準備不足が目立つ授業だったとご指摘を受け、自分でもその通りだと感じました。授業の内容や流れだけでなく、生徒の反応を予測し、それに応じた対応を考えることが重要だと分かりました。そして、回数を重ねるごとに少しずつ予定通りの時間配分で授業を進めることができるようになりました。

最終週には研究授業で実験をおこない、生徒が楽しそうに実験に取り組んでいる様子を見ることができました。

教育実習を通じて、教師という職業の責任の重さとやりがいを実感しました。生徒一人一人の成長を支えるためには、教師は常に努力を惜しまず、自己研鑽を続けることが求められると感じました。